２０２６年
３３８号
７月１７日（金）

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部
〒343-0845
埼玉県越谷市南越谷2-13-49
（越労連内）
TEL・FAX 048-989-2472
E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp



2026年7月…2会場「七夕フェスタ」で年金者組合をPR

第25回越谷市男女共同参画支援センターの登録団体の「七夕フェスタ」が開催されました。

私たち年金者組合も昨年から登録団体となり6月23日から7月5日まで「市役所エントランス」と北越谷の「ほっと越谷」の2会場でPRのための掲示板に模造紙いっぱいの展示を行いました。

初めてのことでなかなか難しいもので、どうしたら年金者組合の活動を知ってもらえるのかを写真、説明文、折り紙の作品を使い目で訴えました。

27日（土）には、オープニングセレモニーが市役所エントランスで予定されていて市長のあいさつやステージ発表、又ビオラ、バイオリンの演奏などプログラムが台風接近のため中止となりました。

プロの演奏も聞けるとあって期待していただけに残念な結果でした。

昨年は北越谷駅北口の桜広場と、ほっと越谷会場でしたが、暑さが厳しく交通整理に動員された役員、参加者も大変でしたので、市役所の利用となりましたが、スタンプラリーが2会場（越谷市役所と北越谷参画センター）と離れており参加する人は少ないように思いました。

期間中、各団体での取り組みとして（ほっカレ）対象講座が21も開かれ講座を受講した方も多かったと思います。

私たち年金者組合も来年度に向けて、何をするべきか宿題を出されたようにも思いました。

（宮下文子）

投稿　生活雑感「教育」と「教養」

暑くなりましたね。

皆さんどうお過ごしですか。

旬のタケノコから始まり、ふき、ラッキョウ、梅、新ショウガに至るまで、この季節はとても忙しいのです。

忙しさに紛れて明日あしたと思っていると、スーパーへ行っても、もうその時期は終わってしまいます。

お金も掛かるのですが「おいしいね」と言われると、友人に配って終わりです。

しかし、あの人がちょっと認知症みたいだ、施設に入ったと聞けば、やはり今日行く（教育）ところがあり、今日用がある（教養）の二つを思い出して多忙を極める日々を慈しんでいます。

（FM）

点晴　忘却の上に平和は築けない

憲法改正を見据えた国民投票法案が参議院でも可決されました。

今、着々と戦争をする国に日本は突き進んでいます。

日本は現在のままでも攻められたら戦えます。自分達の生命を守るのは人間の自然権なので、憲法に先だって認られます。憲法は国家の理想を語るものでなく、国民の権利を保障し、政治家を縛るものです。

9条は時の権力者に戦争をさせない為のものです。

私達は他国の様に『自衛』と云う名目で侵略する戦力を保持しない。持っているのは自然権に依る本当の専守防衛の戦力のみ。けれど最近の高市内閣の政策では憲法を真逆のものに変えようとする邪な意図を感じます。

「スパイ防止法案」や「国旗損壊罪」等の国会上程は婉曲な底意が透けて見えます。

Q. 平和を希求するのであれば戦争の準備をしなければならない。

A. 私は逆だと思います。敵対姿勢を露わに急速に軍拡に走ると、敵対行為と見なされ準備が整なう前に攻撃されます。それに軍事力で対抗しようと思えば際限のない軍拡競争に巻き込まれます。第一、勝てばよいわけではないですよね。憲法で戦争放棄を誓ったから日本は戦後、国際社会に復帰できたのではないでしょうか。ベトナム戦争や最近の国際紛争にも出兵要請を断われたのも平和憲法を盾にできたからではないでしょうか。「やられたらやり返す」とか「やられてからでは遅いので先制攻撃をする。」そういう次元に本質的な解決はないと思います。

その先を示してくれていまのが日本国憲法だと思います。

Q. 現行憲法は進駐軍の押し付けだ。

A. それは誤解です。当時の日本の知識人達の憲法草案が元になっています。戦争の悲惨さを経験して、もう戦争はしないと戦没者の墓前に誓った。9条を失えば、祖先の想いを踏みにじり、平和を愛する日本人の決定的なアイデンティティーを失います。日本はこれまでODAなどで人道支援を行い世界から依頼を得ています。それらの信頼を壊してしまうのではないでしょうか。

映画監督の是枝裕和氏は「憲法は誰のものかと、考えた時に、今、生きている人の都合で書き換えてはいけない。なぜなら憲法には、積み重ねられてきた苦難の歴史、多くの死者の声が反映されているからです。軽々しく時代が変わったら新しいものに書き換えなければ時代にマッチしない。などと言ってはいけないと。」

私は今、声を大にして訴え続けます。

「どんな戦争もダメだ!!」

（高橋三郎）